

勝龍寺城公園

長岡京市の勝龍寺城公園は、16 世紀の日本の歴史上の人物や重要な出来事に関連する城の跡に建てられています。勝龍寺城は、大名の細川忠興（1563 年～1646 年）と細川ガラシャ（1563 年～1600 年）の結婚時の住まいでした。ガラシャは恋愛やキリスト教への改宗、そしてその悲劇的な死のストーリーにより、書籍やドラマで頻繁に取り上げられており、広く愛される人物となっています。かつて城があった場所にある市の公園は、櫓を備えた城壁と堀に囲まれています。中には回遊式庭園と天守閣風の建物があり、内部では勝龍寺城とゆかりの人物について学ぶことができる展示スペースがあります。

元の城

勝龍寺城は、重要な河川交易路と京都の西南の国境を守るために、16 世紀の中頃に築城されたと言われています。近くにあった勝龍寺にちなんで名付けられました。この城は三好家の家臣によって占領され、1568 年に武将である織田信長（1534 年～1582 年）によって征服後、家臣の細川藤孝（1534 年～1610 年）に与えられました。1571 年、勝龍寺城は石垣や瓦、天守閣の建築デザインなど、当時の最先端の建築技術を用いて大幅に改修され、それらは後に信長が自らの壮大な安土城に活用しました。

ロマンスと悲劇

1578 年、細川藤孝の長男 忠興は、同じく織田信長の家臣である明智光秀（1528 年～1582 年）の娘 玉と結婚しました。結婚式は勝龍寺城で行われ、忠興が丹後の国（現在の京都府北部）を任されるまでの 2 年間、夫婦はそこで暮らしました。しかし、光秀が信長を裏切り 1582 年に本能寺の変を起こした結果、信長が亡くなり、玉は裏切り者の娘となりました。約 10 日後に信長の地位を引き継いだ武将豊臣秀吉（1537 年～1598 年）の軍は山崎の戦いで光秀軍と戦いました。秀吉の軍は光秀軍を圧倒し、勝龍寺城まで追撃しました。光秀は夜中に北門から逃げましたが、そのあとすぐ殺害されました。

忠興は妻を小さな村に隠していましたが、秀吉は家臣の忠誠心を保つために忠興の家族を大坂城の近くに移すように命じ、妻は政治的な人質とされました。大坂にいる間、玉は密かにキリスト教に改宗しガラシャの名前を授かりました。秀吉亡き 2 年後、1600 年に、秀吉の元家臣の 1 人は、家族が敵対する武将である徳川の軍に寝返るのを防ぐためにガラシャなどを人質として捕らえようとしていました。当時の武士の妻は、夫に不利に利用されるよりも自害をすることを期待されていましたが、ガラシャのキリスト教の信仰は自殺を罪とみなし、自ら行動を起こすことができませんでした。代わりに、夫の家臣が彼女の命を絶ち、邸宅に火を放ち彼女を追って自殺しました。それ以来、細川ガラシャは歴史の中で魅惑的かつ悲劇的な人物とみなされてきました。

城公園

16 世紀に築城された勝龍寺城は、北門の石垣部分や土塁、そして堀の一部しか城跡として残っていません。1992 年にこの場所は公園となり、管理棟が城のような外観で建設されました。公園の周りの新しい堀の側には春に真っ赤に咲くツツジが並んでいます。城壁内には鯉が泳ぐ池や桜やモミジ、小さな竹林、そして勝龍寺城にかつて住んでいた有名な夫婦である忠興やガラシャの像があります。天守閣風の管理棟の 2 階には展示室があり、当時の城の図面や重要な出来事が記された図解年表、一部の出土品、そしてガラシャの人生に関する英語字幕付きのビデオを見ることができます。11 月の第 2 日曜日開催のにぎやかな長岡京ガラシャ祭では、勝龍寺城公園への輿入れの行列が再現されます。